

1 光重合型裏装剤の病理組織学的並びに臨床的研究

○ 一木数由、久芳陽一、尾崎正雄、本川渉

福岡歯科大学小児歯科学講座

光重合型ガラスイオノマーセメントである3M社製ビトラボンドは硬化時間の調整が可能であり、歯質に対しても良好な接着性を有する操作性において優れた裏装用セメントである。

今回、我々はビトラボンドを窩洞形成後の裏装剤として使用し、その臨床症状について約2年間経過観察を行った。また、幼犬を用いた病理組織学的観察も併せて行った。

方法

1. 歯髄反応に関する病理組織学的研究

幼犬の乳歯の左右側上下顎D₁、DP₂、DP₃計37歯を使用した。術後3日、7日、および28日観察の後、通法に従って病理組織標本作製し鏡見した。

2. 臨床成績

被験者は福岡歯科大学小児歯科を受診した3歳～10歳までの小児、66名で修復を必要とする上下顎乳前歯、乳臼歯を対象とした。

修復材料には乳前歯には光重合型コンポジットレジン Silux また Silux-pulsを、乳臼歯用には P-30 または P-50 を用い、通法に従い窩洞形成を行った。特に深い窩洞には水酸化カルシウム製剤で間接覆髄を行った後、ビトラボンドを塗布し、可視光線重合器で30秒間光重合を行った。その後、エナメルエッチングを行い、レジン充填を行った。観察は3か月ごとの定期検診時に行った。